

平成28年

1月

No.100

地域医療連携室だより



Izumi Municipal Hospital
和泉市立病院

発行/和泉市立病院 地域医療連携室 (毎月1回発行)

電話/直通 0725-41-3150 代表 0725-41-1331

FAX/直通 0725-41-2513

新年のご挨拶

高い専門性と地域のニーズに応える病院を目指して



総長
福岡 正博

平成28年の初頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。昨年中は、和泉市立病院に多大のご支援をいただき誠にありがとうございました。

本院も指定管理者制に移行して2度目の新年を迎えました。当初は、一部の診療科で医師が非常勤になり、多数のメディカルスタッフが退職するなど、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。昨年は、皮膚科、麻酔科、病理診断科などに常勤医師が加わり、また、部分的ではありますが救急診療も開始し、少しずつ充実した医療ができるようになったと思っています。

本年は、循環器内科、呼吸器内科、消化器(肝臓)内科、腫瘍内科、小児科、皮膚科、整形外科、婦人科、放射線科などの診療科を引き続き強化するとともに、外科については、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科を独立して専門性を高めた体制にしたいと考えています。また、

懸案の消化管専門の内科医、泌尿器科医を何としても招聘したいとも思っています。救急医療にも力を入れるとともに、地域連携施設からの紹介患者さんは必ず受け入れられるよう徹底したいと思っています。

本院の医師は、大阪市立大学医学部の医局からの派遣に全面的に頼ってまいりました。しかし、平成29年から始まる「新専門医制度」のことを考えますと、複数の基幹施設(大学病院)の連携施設になるべきだと考えています。そこで、地理的なことも含めて、大阪市立大学医学部と近畿大学医学部の2つの基幹施設のプログラムに参加し、多くの専門医を育成できる体制にしたいと考えています。幸い、両大学の了解も得ていますので、常勤医師が不在あるいは不足している診療科には、近畿大学医学部からも医師の派遣をお願いしているところです。

本院は、平成30年4月の新病院開院に向けて、本年4月には建築が開始されることになっています。平成28年は、新病院への準備の年と位置づけ、地域の連携施設とタッグを組んで良い病院造りに取り組みたいと思います。

皆様のご支援をお願い申し上げます。

新年のご挨拶



病院長
村上 城子

新年あけましておめでとうございます。指定管理制度に移行後1年9ヶ月が経過し、おかげさまで外来数、入院数、病床稼働率も改善してまいりました。これもひとえに地域の先生がたからのご紹介の賜物と深謝申し上げる次第でございます。

救急医療に関しては、全再開に向けて少しずつ体制を整えつつあります。日勤帯の救急車は月曜から日曜日まで原則全受入、夜間は現行では月・木曜日に全受入していますが今後拡充していく予定でございます。Walk in患者も月曜から日曜日のすべての日勤帯、月・木の夜間に受け入れております。なお外科／整形外科の日替わりの夜間救急、泉州小児救急輪番制下での小児救急もこれまで通り継続しています。おかげさまで救急搬送数は倍増しました。今後さらなる倍増を目指して、和泉市の救急医療に貢献してまいりたいと考えております。



麻酔科、皮膚科、病理科の常勤医師が増員になりました。常勤麻酔科医がいることで安定した手術体制がとれ緊急手術にも柔軟に対応できております。新規に皮膚科手術も開始されました。呼吸器内科は気管支鏡検査件数が増加し、超音波気管支鏡(EBUS)検査も実施できるようになりました。肝臓病センターでは専門医の下、医療費助成制度を利用してC型肝炎の新規経口薬での治療を積極的に行っています。循環器内科は連携室を介して緊急時間外にも対応、より詳細な冠動脈評価のために血管内超音波(IVUS)を導入しました。緩和ケアチームは高い評価を得ており、緩和看護を希望して入職する看護師が増えてきています。

新病院建設は平成30年春の開院をめざして急ピッチで進行しています。すでに基本設計が終了しデザインビルド方式での実施設計業者が選考されました。今後構造決定が行われ本格着工に進む予定です。

職員は患者様を断らないことを信条に、また一方では経常収支のさらなる改善をめざし、全職員が同じ方向のベクトルで地域の先生がたと一衣帯水の気持ちで地域医療に粉骨砕身していく所存でございます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。





看護部長
副がんセンター長
川口 いずみ

新年明けましておめでとうございます。当院がつつがなく新年を迎えることができましたのも、ひとえに皆様のご支援、ご厚情のお陰と心よりお礼申し上げます。

当院看護部は、平成26年4月より指定管理制度が開始となり、「公設民営」に移行したのを機に、多くの看護師が入れ替わりました。現在では、移行時に留まってくれたスタッフは中枢メンバーとして看護部を支え、移行後に入職したスタッフは他施設での経験を生かし、現場に“新しい風”を吹き入れてくれています。組織としては、まだまだ発展途上段階ではありますが、新旧お互いの長所を生かしつつ患者様に寄り添う看護を実践したいと頑張っています。

その中で、看護部としての新しい取り組みをいくつかご紹介いたします。

まずは、専任の教育担当者を配したことです。これにより、看護師教育体制の見直しと充実が可能となりました。現在は教育制度にe-ラーニングを導入し、「いつでもどこでも

学べる環境」を整備し、看護師の知識・技術の向上に努めています。

さらに、マナーや接遇、個人情報取り扱いなどの教育にも力をいれ、患者サービスに繋がるよう取り組んでいます。

さらに、もう一つの“新しい風”として、「看護部事務部門」を独立させました。専門職の多い医療現場では、生活の延長線上に医療があることを忘れがちになってしまいます。看護事務職は、患者様に寄り添い、退院後安心して生活が送れるよう必要書類を適切に処理し、その他事務作業を担うことで、医療スタッフが今以上に質の良い医療を提供できるよう“緑の下の力持ち”として尽力してくれると考えています。

12月より、看護部事務への教育研修が開始されています。“事務のプロフェッショナル”として、より一層現場の医療スタッフを支えてくれることを期待しています。

「優しさと思いやりのある看護の実践」。上記でご紹介した取り組みはすべて、この看護部の理念に基づいて実践しています。看護部に所属する約250名のスタッフ全員が同じ志を持ち、同じ目標に向かって歩みを進められるよう、絶えず挑戦し続ける組織でありたいと願っています。

病院の理念



1. 患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に務めます。
2. 患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
3. 新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
4. 思いやりのある医療人の育成に努めます。

地域医療連携室よりお知らせ

平成27年12月末
退職非常勤医師

消化器内科 鶴 蘭 卓也
循環器内科 石川 世良
藤田 澄吾子



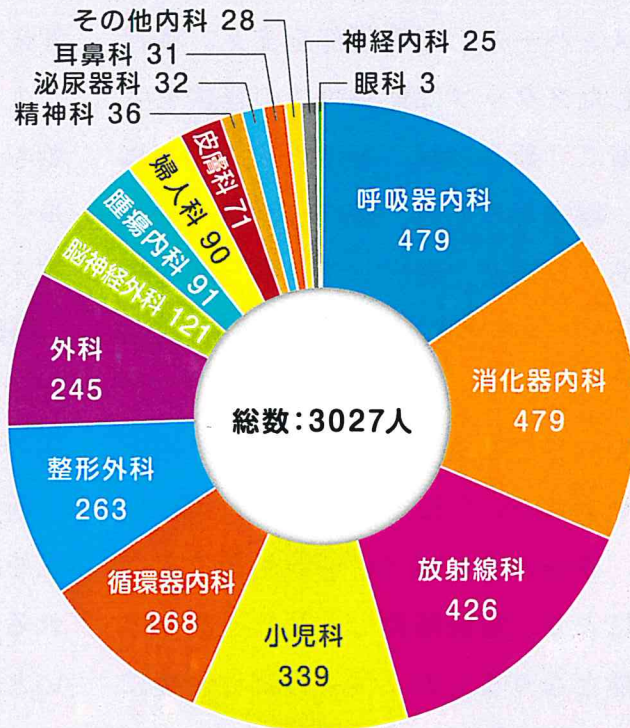
在籍中は、大変お世話になり、ありがとうございました。
診療科の体制については、皆様のご迷惑とならないよう早急に整えてまいります。新入職医師が決まりましたら、あらためてご紹介させていただきます。

ご紹介患者数のお知らせ

たくさんのご紹介を頂き、誠にありがとうございました。これからも更にご紹介を頂けるよう、鋭意努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

科 名	患者数
呼吸器内科	479
消化器内科	479
放射線科	426
小 児 科	339
循環器内科	268
整形外科	263
外 科	245
脳神経外科	121
腫瘍内科	91
婦 人 科	90
皮 膚 科	71
精 神 科	36
泌 尿 器 科	32
耳 鼻 科	31
その他内科	28
神 經 内 科	25
眼 科	3
総 計	3027

平成27年4月～9月 紹介患者数



地域医療連携室より、新年のご挨拶

旧年中はお世話になり、誠にありがとうございました。今年も地域の患者様、先生方から信頼される病院、そして地域医療連携室となるよう、誠心誠意努めていく所存ですので、変わらぬご高配のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

